

問 平成29年6月定例会の一般質問で二人の議員から、新分庁舎の飲食施設に対する商店街の方々の認識について質問があった。しかし、市の認識が誤った答弁内容であったため、商店街の方々の混乱を招いているようだが、答弁内容とその後対応、現在の状況は。

答 八木駅前商店街振興組合（振興組合）の理事長に対し、1階にできる飲食施設の説明を既に行い、ご理解をいただいているような答弁をしてきたが、実際には、説明する機会を設けて説明していたわけではなく、ご了解を得ていた事実もなかったことが確認できた。6月定例会以降、振興組合と近鉄八木駅名店街協同組合（協同組合）の皆様とお会いして謝罪をし、当該事業を進める方向で協議を進めている。今後は、地域商店街の方々を含めた地域の皆様とは、しっかりとした協議を行い、地域の活性化につながる、協働のまちづくりを進めたい。本会議における発言の誤りにより、市議会議員の皆様、振興組合理事長を始め、振興組合・協同組合の皆様、市民の

皆様にご迷惑をおかけしたことを深く反省し、今後このようなことがないように、発言する内容をしっかりと確認して答弁する。

問 「檀原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」での「多極ネットワーク型のコンパクトなまち」の意義は。

答 人口減少などの制約下で、生活に必要な各種サービスを提供し、効率的に提供するためには、各種機能の集約が必要である。一方、集約化だけでは、人口規模の確保ができなくなるおそれもある。各地域をネットワーク化するこ

とで、圏域人口を確保し、各種の都市機能を提供し、サービスを維持することが必要となる。新たな価値創造やにぎわいの創出にもなるため、地域を持続可能にするための1つの有効な手段と考えている。**問** 具体的な施策および都市のコンパクト化の手法や規制と、圏域の考えは。都市をコンパクト化できても、人口維持と、都市機能の循環が重要と考えるが、認識は。

答 檀原市都市計画マスタープランで、市の20年後の将来像を見据え、おおむね10年間

のまちづくりの方向性を定めている。平成27年に県と締結をした「まちづくりに関する包括協定」で、大和八木駅、医大、檀原神宮前駅の3つの周辺地区をまちづくりの拠点と位置づけ、市内にある13の鉄道駅を活用したネットワークの形成を生かした、特色あるまちづくりを目指す。その他、市街化区域では、各用途

地域を定めており、良好な居住環境の確保を図っている。市街化調整区域では、自然環境の保全に努め、無秩序な土地利用が進まないように、規制と緩やかな誘導の両立によるまちづくりが重要である。人口維持は、各自自治体の命題であり、各施策と連携し、持続可能な環境をつくる必要がある。都市計画法に基づき、

一定の誘導や規制によるコンパクトなまちづくりを目指し、人の流れを増やすために、本市への移住を促進することで、活力とにぎわいのある元気なまちづくりを今後も目指したい。

檀原市歌

問 檀原市歌「虹染めて」策定後約15年経過し、耳にする機会が減った。もう少し認知度を高める取り組みや活用方法を検討すべきでは。

答 市民憲章や檀原市歌をしっかり継承するとともに、市民にも愛され親しまれるよう、幅広く活用する方向で検討したい。

問 具体的な活用方法は。

答 新分庁舎で、市民サービスに支障のない範囲のBGMや休憩時間などでの放送、市内小・中学校の入学式・卒業式など、イベント開催時にBGMとして流すなど、郷土教育の一環として、檀原市歌に触れる機会を作れないか関係部署とも連携を図りながら検討したい。

作詞：駒井 瞭 補作詞：東 祥高
作曲：東 祥高

一 大和山 吹く風に

緑 緑 緑 花ひらく

国 まほろば わがまちは

心 心 心 あう 愛がある

友 友 友 歌おう 肩寄せ

希望 希望 希望 檀原 高らかに

檀原市歌「虹染めて」歌詞 1番

一般質問

佐藤 太郎
(自民党)

八木駅南新複合施設における民業圧迫と議会説明

問 前回「このホテル事業は、敷金、礼金、保証金がゼロとはおかしい」と伝え、「検討する」との答えであった。その後は。

答 このPFI事業は、募集要項等、整えた上で募集した事業で、これを変えることはできないが、3年に1回見直しの必要がある。そのとき、家賃や賃料は検討課題と心得ている。機会があれば、事業者とできる範囲で話をしたい。**問** PFI事業で一番大事なのは、地元とのパートナーシップである。これを無視して事業をしていたことに疑問を感じるが。

答 最近、地元商店街を伺ったとき「きちんと市が説明すべきであった」と指摘を受けた。大きな反省点である。議会に説明し、一定の理解を得たと考え進めたが、レストラ